

和歌山県立  
日高高等学校

SGH ネットワーク 通信  
第17号

2022年3月11日



## 全国高校生フォーラム

主催：文部科学省 国立大学法人筑波大学

2021年12月19日（日）、本校の2年生2名が全国高校生フォーラム（オンライン開催）に参加しました。当日の参加者は文部科学省が実施しているWWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業及びSGHネットワークに参加する高校生たちで、日頃取り組んでいるグローバルな社会課題の解決や提案等を話し合ったほか、英語でのプレゼンテーション映像を発信しました。（一部引用：令和3年12月20日付 文部科学省報道発表資料

「2021年度全国高校生フォーラム表彰校の決定について」）



★ 生徒の学び ★

### 2年5組 大江 胡桃

フォーラム参加をとおして、自分の英語のスキルやいろいろな人とディスカッションする力がすごく身についたと思う。

日本語原稿を英訳し、それに修正を加えていただく形でようやく調った原稿を見たとき、そのぎっしり詰まった英語原稿に、正直、「どうしよう……」と思った。英語力も単語力も発音する力も、すべてにおいて自信がなかったからだ。加えて、動画を撮ってたくさんの人に発信するなんて本当にできるのだろうか、半分諦めに似た境地だった。

しかし、放課後の練習で先生方にみっちり教えていただいた期間、特に本番前の3日間では自分がものすごく成長したことを感じたし、なにより、佳音と2人で成長していくことが楽しかった。

当日のディスカッションでは、バタバタするところもあったけれど、2人で力を合わせれば何とかできるということに気づけた。ピンチを自分たちの英語力で乗り越えられたことは大きな自信になったし、何より英語が楽しかった。他校の発表ではその英語力の高さに驚いたが、決して諦めるのではなく、今回のような機会をもっと経験することで彼らに追いつきたいと思った。今後こうしたチャンスを積極的に捉え、自分の英語スキルを上げていくと同時に、世界のさまざまな課題解決に関わっていきたい。

### 2年5組 堀口 佳音

私が今回、準備期間を含めて全国高校生フォーラムに参加して思ったことは、自分の英語力と、発想の柔軟性がとても未熟だということだ。

始まりは夏、「海の宝アカデミックコンテスト2021」で地球温暖化による珊瑚の白化現象を題材に作った紙芝居。それを英訳し、さらに生物多様性損失に関する日本の取組を交えて英語映像プレゼンテーションを作成した。フォーラム当日は、その映像プレゼンテーションについて、感想や改善点を交えた講評を伺った。プレゼンテーションは4分という限られた短い時間の中で、どれだけ簡潔に、かつ濃く、魅力的に伝えられるかが重要である。そのプレゼンテーションを審査員に褒めていただいたことが最も嬉しかった。しかし、構成と見せ方に工夫を凝らしたとは言え、英語に関しては課題が浮き彫りになった。プレゼンテーションは、何度も何度も繰り返し練習し、また、先生方に指導していただいたおかげで最終的にはスムーズに読むことができた。しかし、ディスカッションの場面では不安や焦り、知識不足などから、自分の思うことを思うように英語で伝えることができず、悔しさを感じ、劣等感さえ抱いた。また、審査員からの指摘に素早く切り返したり自主的に発言したりする他校の生徒を見て衝撃を受けた。更に、着眼点や研究内容がどれも想像以上で、既存の事実と事実の関連性を見ていくことで新たな視点を持ち、考えを深めていけるのだと感じた。

日本全国、北から南まで、様々な学校の活動を知ることができたほか、自分の中にはない新しい意見をたくさん聞くことができ、とても刺激的で貴重な経験となった。これからも人との議論を大切にし、自分独自の意見を持てる人間を目指していきたい。